

日本学術会議活動状況報告

会長及び副会長報告資料

日本学術会議活動状況報告

2025 年 10 月 27 日

前回（第 194 回）総会以降の活動状況報告

第 1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
4 月 14 日（月）～ 15 日（火）	日本学術会議第 194 回総会	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
4 月 15 日（火）	記者会見	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
4 月 16 日（水）	2025 年日本国際賞授賞式	光 石 会 長
4 月 25 日（金）	ポーランド科学アカデミー会長との会談	日 比 谷 副 会 長
4 月 25 日（金）	大阪・関西万博ポーランド科学アカデミー主催 「科学の世界の女性たち」への出席	日 比 谷 副 会 長
4 月 26 日（土）	共同主催国際会議「国際生殖医学会 2025」開会式	日 比 谷 副 会 長
4 月 28 日（月）	共同主催国際会議「第 43 回人と情報システムの 相互作用に関する国際会議」開会式	日 比 谷 副 会 長
5 月 3 日（土）	共同主催国際会議「第 23 回世界災害救急医学会」 開会式	光 石 会 長
5 月 5 日（月）	政府に対する科学的助言に関する国際ネットワ ーク（INGSA）会長 との会談	日 比 谷 副 会 長
5 月 6 日（火）～ 8 日（木）	Gサイエンス学術会議 2025	日 比 谷 副 会 長
5 月 11 日（日）	共同主催国際会議「第 25 回国際心臓研究学会世 界大会」開会式	磯 副 会 長

5月22日（木）	中国科学技術協会（CAST）会長との会談	光 石 会 長 日 比 谷 副 会 長
6月2日（月）	気象庁気象業務百五十周年記念式典	三 枝 副 会 長
6月10日（火）	日本学士院第115回授賞式	磯 副 会 長
6月11日（水）	坂井大臣との面会	光 石 会 長
6月12日（木）	Gサイエンス学術会議2025 共同声明の総理手交	光 石 会 長 日 比 谷 副 会 長
6月12日（木）	記者会見	光 石 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
6月21日（土）	日本地理学会百周年記念式典	三 枝 副 会 長
6月22日（日）	公開シンポジウム「第2回「ケア・イノベーションの最前動向」」（オンライン）	磯 副 会 長
7月2日（水）	日本消防協会「山火事など世界災害」国際会議	日 比 谷 副 会 長
7月8日（火）～ 9日（水）	世界科学フォーラム（WSF）2026 第1回運営委員会	日 比 谷 副 会 長
7月12日（土）	日本学術会議主催学術フォーラム「急激に変わりゆく地球環境と国際情勢：地球惑星科学の国際連携・国際協調」	三 枝 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
7月14日（月）	駐日フランス大使館ナショナルデー祝賀レセプション	光 石 会 長
7月17日（木）	公開シンポジウム「生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて」	光 石 会 長
7月18日（金）	地方学術会議「日本学術会議 in 石川」開催にかかる能登半島事前訪問	光 石 会 長 磯 副 会 長
7月28日（月）	記者会見	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
7月28日（月）	公開シンポジウム「地球温暖化は南極をどのように変えるか？」－日豪共同研究の新展開－	三 枝 副 会 長

7月29日（火）	サイエンス 20 (S20) 第1回共同声明検討会議（オンライン）	日比谷 副会長
8月1日（金）	中部地区会議運営協議会・科学者懇談会	三枝 副会長
8月2日（土）	地方学術会議「日本学術会議 in 石川」	光石 会長 三枝 副会長 磯 副会長 日比谷 副会長
8月6日（水）	こども霞が関見学デー	光石 会長 日比谷 副会長
8月7日（木）	公開シンポジウム「研究者になって世界を駆け巡ろうⅡ～研究者の卵たちと共に未来を描く～」	光石 会長 三枝 副会長
8月10日（日）	公開シンポジウム「AI時代に「対話」の意味を考えるー熟議がつむぐ知と社会」	日比谷 副会長
8月15日（金）	全国戦没者追悼式	光石 会長
8月19日（火）	第7回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」ー能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備えー	三枝 副会長
8月27日（水）	サイエンス 20 (S20) 第2回共同声明検討会議（オンライン）	日比谷 副会長
8月29日（金）	記者会見	光石 会長 三枝 副会長 磯 副会長 日比谷 副会長
8月30日（土）	生命科学系の学協会連合体との円卓会議	磯 副会長
9月1日（月）	共同主催国際会議「第22回有機合成指向有機金属化学国際会議」開会式	日比谷 副会長
9月11日（木）	「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」分科会 プランニング会議（オンライン）	光石 会長
9月13日（土）	近畿地区会議学術講演会「社会の持続可能性と水問題」	三枝 副会長
9月23日（火）	サイエンス 20 (S20) 2025（オンライン）	日比谷 副会長
9月26日（金）	記者会見	光石 会長 三枝 副会長

		磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
9 月 28 日（日）	公開シンポジウム「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材：第2回」（オンライン）	磯 副 会 長
10 月 2 日（木）	政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク（INGSA）キリオン会長との会談	光 石 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
10 月 2 日（木）	政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク（INGSA）キリオン会長セミナー	光 石 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
10 月 2 日（木）	駐日ドイツ大使館ドイツ統一記念日レセプション	光 石 会 長
10 月 3 日（金）	ニュージーランド首相首席科学顧問との会談	光 石 会 長 日 比 谷 副 会 長
10 月 4 日（土） ～ 7 日（火）	「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」第 22 回年次総会	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
10 月 5 日（日）	国際学術会議（ISC）会長・次期会長との会談	光 石 会 長 日 比 谷 副 会 長
10 月 5 日（日）	国際アドバイザリーボード会合	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
10 月 5 日（日）	英国王立協会副会長との会談	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
10 月 6 日（月）	「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」分科会	光 石 会 長
10 月 6 日（月）	「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」アカデミー・プレジデント会議	光 石 会 長 三 枝 副 会 長

		磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
10 月 6 日（月）	オランダ王立芸術科学アカデミー会長との会談	光 石 会 長 日 比 谷 副 会 長
10 月 7 日（火）	ドイツ国立科学アカデミー・レオポルディーナ会長との会談	光 石 会 長 日 比 谷 副 会 長
10 月 14 日（火）	日本学士院秋季懇親会	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
10 月 20 日（月）	共同主催国際会議「第 15 回国際口蓋裂・頭蓋顔面異常学会国際会議」開会式	光 石 会 長
10 月 24 日（金）	日本看護系大学協議会 50 周年記念式典	磯 副 会 長

第 2 会長談話・会長メッセージ

次の会長談話・会長メッセージを公表した。

- 1 日本学術会議会長メッセージ「日本学術会議法案の国会審議について（報告及び今後の対応）」
(令和 7（2025）年 5 月 15 日公表)
- 2 日本学術会議会長談話「日本学術会議法案の成立を受けて」
(令和 7（2025）年 6 月 12 日公表)
- 3 日本学術会議会長メッセージ「日本学術会議第 26 期 1 年目（令和 5（2023）年 10 月～令和 6（2024）年 9 月）の活動状況に関する評価」における指摘事項に対する考え方について」
(令和 7（2025）年 9 月 29 日公表)
- 4 日本学術会議会長談話「坂口志文先生のノーベル生理学・医学賞受賞、北川進先生のノーベル化学賞受賞を祝して」
(令和 7（2025）年 10 月 10 日公表)

第3 提言等の承認

○決議

日本学術会議

「日本学術会議法案の修正について」

(令和7(2025)年4月15日公表)

○声明

日本学術会議

「次世代につなぐ日本学術会議の継続と発展に向けて～政府による日本学術会議法案の国会提出にあたって」

(令和7(2025)年4月15日公表)

第4 地方学術会議

1 「日本学術会議 in 石川」

(2025年8月2日(土) 石川県(オンライン併用))

第5 学術フォーラム

次の日本学術会議主催学術フォーラムを開催した。

1 「急激に変わりゆく地球環境と国際情勢：地球惑星科学の国際連携・国際協調」

(2025年7月12日(土) 日本学術会議講堂(オンライン併用))

2 「多層多軸連関で捉えて対策する心血管・腎・代謝症候群」

(2025年9月13日(土) 日本学術会議講堂(オンライン併用))

3 「米国科学技術政策の転換、その影響を考える」

(2025年10月5日(日) 日本学術会議講堂(オンライン併用))

第6 国際会議の開催

次の国際会議を開催した。

1 共同主催国際会議「国際生殖医学会 2025」

(2025年4月18日(金)、4月26日(土)～4月29日(火) 東京都)

2 共同主催国際会議「第43回人と情報システムの相互作用に関する国際会議」

(2025年4月26日(土)～5月1日(木) 神奈川県)

3 共同主催国際会議「第23回世界災害救急医学会」

(2025年5月2日(金)～5月6日(火) 東京都)

- 4 共同主催国際会議「第 25 回国際心臓研究学会世界大会」
(2025 年 5 月 11 日 (日) ～ 5 月 14 日 (水) 奈良県)
- 5 共同主催国際会議「第 22 回有機合成指向有機金属化学国際会議」
(2025 年 9 月 1 日 (月) ～ 9 月 6 日 (土) 京都府)
- 6 共同主催国際会議「第 15 回国際口蓋裂・頭蓋顔面異常学会国際会議」
(2025 年 10 月 20 日 (月) ～ 10 月 24 日 (金) 京都府)

第 7 日本学術会議地区会議

次の各地区会議主催講演会等を開催した。

- 1 北海道地区会議 学術講演会「次の新興・再興感染症にどう備えるか」
(2025 年 8 月 7 日 (木) 北海道 (オンライン併用)) ※第二部会と共催
- 2 東北地区会議 学術講演会「研究者になって世界を駆け巡ろう II ～研究者の卵たちと共に未来を描く～」
(2025 年 8 月 7 日 (木) 宮城県 (オンライン併用)) ※第三部会と共催
- 3 北海道地区会議 学術講演会「AI 時代に「対話」の意味を考える―熟議がつむぐ知と社会」
(2025 年 8 月 10 日 (日) 北海道 (オンライン併用)) ※第一部会と共催
- 4 近畿地区会議 学術講演会「社会の持続可能性と水問題」
(2025 年 9 月 13 日 (土) 京都府 (オンライン併用))

第 8 会員の辞職及び任命

1 会員の辞職

小畑 郁会員、神田 玲子会員が、令和 7 (2025) 年 9 月 18 日付で退職した。

2 会員の任命

北川 宏連携会員が、令和 7 (2025) 年 5 月 14 日付で会員に任命された。

第 9 慶弔等

1 慶事

・令和 7 年春の叙勲受章者 令和 7 (2025) 年 4 月 29 日発令

【瑞宝重光章】

春日 雅人 (元会員 (第 22-24 期)、元連携会員 (第 20-22 期))

三島 良直（元連携会員（第20-22期））

【瑞宝中綬章】

犬井 正（元連携会員（第21期））

岩渕 明（元連携会員（第21-25期））

小川 全夫（元連携会員（第20-21期））

奥林 康司（元連携会員（第20-25期））

加藤 泰建（元連携会員（第20-21期））

北 潔（元連携会員（第20-22期））

木下 タロウ（元連携会員（第21-22期））

五條堀 孝（元連携会員（第20-22期）、元連携会員（特任）（第23-24期））

佐藤 英明（元会員（第22-23期）、元連携会員（第20-21期、第24-25期））

澤本 光男（元会員（第20-22期）、元連携会員（第23-24期））

下川 悦郎（元連携会員（第20-21期））

進士 五十八（元会員（第20-21期）、元連携会員（第22-23期））

神野 直彦（元連携会員（第20-23期））

鈴木 修（元連携会員（第20-21期））

武田 廣（元連携会員（第20期））

辻 省次（元連携会員（第20-24期））

橋田 充（元会員（第21-22期）、元連携会員（第20期、第23-24期））

原島 博（元連携会員（第20-21期）、元連携会員（特任）（第24期））

無藤 隆（元連携会員（第20-21期）、元連携会員（特任）（第22期））

森棟 公夫（元会員（第21-22期）元連携会員（第20期、第23-24期））

山本 一彦（元会員（第24期）、元連携会員（第20-23期、第25-26期））

渡辺 義公（元連携会員（第20-21期））

・令和7年春の褒章受章者 令和7（2025）年4月29日発令

【紫綬褒章】

津村 義彦（元連携会員（特任）（第22期））

佐竹 健治（会員（第25-26期）、元連携会員（第20-24期））

木本 恒暢（連携会員（第25-26期））

西田 幸二（元連携会員（第23-24期））

- ・ノーベル生理学・医学賞 令和7年10月6日公表

坂口 志文（連携会員（第20期、第23-26期））

- ・ノーベル化学賞 令和7年10月8日公表

北川 進（元会員（第22-23期）、元連携会員（第21期、第24-25期））

2 弔事

- ・佐和 隆光（さわ たかみつ） 2025年5月17日 享年82歳

元連携会員（第20-21期）

京都大学名誉教授

- ・佐々木 園（ささき その） 2025年6月25日 享年63歳

会員（第26-27期）、元連携会員（第24-25期）

京都工芸繊維大学繊維学系教授

- ・片山 倫子（かたやま みちこ） 2025年8月2日 享年84歳

元会員（第21期）、元連携会員（第20、22期）、元連携会員（特任）（第23-24期）

東京家政大学名誉教授

第10 その他

事務局人事異動

参事官（審議第一担当）

旧：根来 恭子

新：郷家 康德

（令和7（2025）年5月1日付）

事務局長

旧：相川 哲也

新：畠山 貴晃

（令和7（2025）年7月1日付）

事務局次長

旧：熊谷 勝美

新：田中 駒子

（令和7（2025）年7月1日付）



2025年4月から2025年10月の 活動報告

第195回総会
第26期日本学術会議会長
光石衛

- 日本学術会議の在り方に関する経緯について
- 法人化の概要について
- 法人化準備について
- 日本学術会議第26期アクションプランについて
- 主な国際活動
- 会長メッセージ、会長談話

2023年

- 8月 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会開催
- 10月 第26期開始
日本学術会議第189回総会
- 12月9日 日本学術会議第190回総会
声明「日本学術会議のより良い役割発揮に向けた基本的考え方ー自由な発想を活かした、しなやかな発展のための協議に向けてー」
- 12月21日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会「中間報告」
- 12月22日 「日本学術会議の法人化に向けて」(内閣府特命担当大臣決定)
会長メッセージ「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会「中間報告」及び「日本学術会議の法人化に向けて」について

2024年

4月～ 内閣府「組織・制度ワーキング・グループ」及び「会員選考等ワーキング・グループ」開催

4月22・23日 日本学術会議第191回総会

声明「政府決定「日本学術会議の法人化に向けて(令和5年12月22日)」に対する懸念について～国民と世界に貢献するナショナル・アカデミーとして～」

6月7日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会(第11回)

－「より良い役割発揮のための制度的条件」(日本学術会議幹事会)

7月29日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会(第12回)

－「法人化をめぐる議論に対する日本学術会議の懸念」(日本学術会議会長)

2024年

10月21・22日 日本学術会議第192回総会

11月29日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会(第13回)

－「より良い役割発揮のためのナショナルアカデミーの設計コンセプトについて」(日本学術会議幹事会)

－「日本学術会議の会員選考に関する方針」(日本学術会議幹事会)

12月13日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会(第14回)

－「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」の説明

12月18日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会(第15回)

12月20日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会最終報告書公表

「世界最高のナショナルアカデミーを目指して」

12月22日 日本学術会議第193回総会(臨時総会)

会長談話

「有識者懇談会最終報告及び日本学術会議第193回総会を受けて～より良い役割発揮のための改革に向けて～」

2025年

- 2月13日 幹事会(非公開審議) 内閣府より法案の検討状況について説明・質疑
- 2月27日 会長談話「日本学術会議の法人化に関する法案の検討状況について」
- 3月7日 「日本学術会議法案」閣議決定
会長談話「日本学術会議法案について」
- 3月13日 「日本学術会議法案の閣議決定に寄せて」
(日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会委員一同)
- 3月24日 「日本学術会議法案に関する懸念事項について」(幹事会から内閣府へ送付)
- 4月8日 「日本学術会議法案に関する見解について」(内閣府から幹事会へ回答)
- 4月14・15日 第194回総会(声明及び決議の採択)
 - 声明「次世代につなぐ日本学術会議の継続と発展に向けて～政府による日本学術会議法案の国会提出にあたって」
 - 決議「日本学術会議法案の修正について」

2025年

- 4月18日 衆議院本会議(坂井大臣(当時)による法案趣旨説明・質疑)
- 4月25日 衆議院内閣委員会(趣旨説明、政府質疑)
- 5月7日 衆議院内閣委員会(参考人質疑・政府質疑)
- 5月9日 衆議院内閣委員会(政府質疑、討論・採決、附帯決議)
- 5月10日 衆議院本会議(討論・採決)
- 5月28日 参議院本会議(坂井大臣による法案趣旨説明・質疑)
- 5月29日 参議院内閣委員会(趣旨説明、政府質疑)
- 6月3日 参議院内閣委員会(参考人質疑)
- 6月5日 参議院内閣委員会(政府質疑)
- 6月10日 参議院内閣委員会(政府質疑、討論・採決、附帯決議)
- 6月11日 参議院本会議(討論・採決)
- 6月12日 石破内閣総理大臣(当時)への共同声明手交
会長談話「日本学術会議法案の成立を受けて」公表



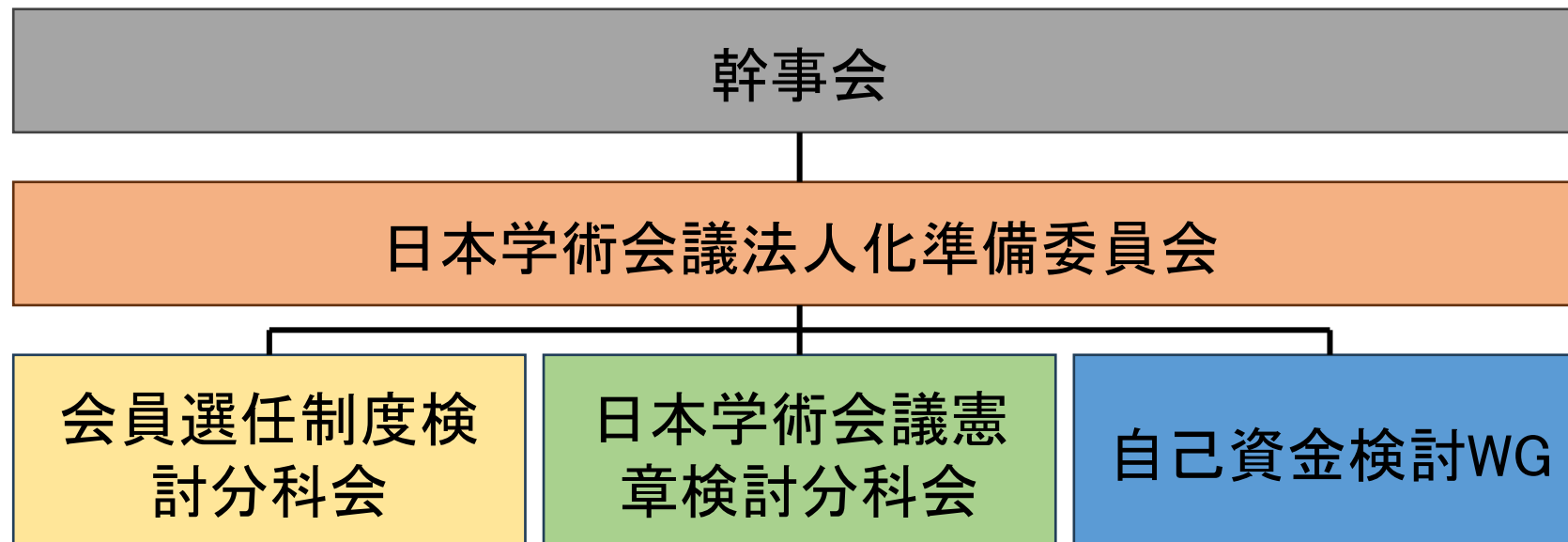
(2025年5月9日衆議院内閣委員会)

※国会日程のうち下線は光石会長出席

法人化準備について

■ 法人化準備委員会について

- 法人化後の日本学術会議の組織体制やガバナンス等、法人化に伴い検討が必要な事項について審議するため、8月29日に日本学術会議法人化準備委員会、分科会・WGを設置



■ 会員選考について

- 候補者選考委員を選定中

- 日本学術会議のより良い役割発揮に向けて、特に今期に重点的に進めていく事項
 - 幹事会構成員のほか、産業界、若手アカデミー、広報委員会などの会員・連携会員を加えた「第26期アクションプラン企画WG」(企画WG)を中心に、委員会・分科会等と協働して取り組む
1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化
 2. 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化
 3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上
 4. 産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進
 5. 学術を核とした地方活性化の促進
 6. 情報発信機能の強化
 7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化

(具体的な取組)

✓課題解決型の助言機能強化

⇒速やかな意思の表出に向けて取り組む課題

- ・「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」(2024年11月公表)
- ・提言「生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて」(2025年2月公表)
- ・提言「気候危機に対処するための産官学民の総力の結集－循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への転換－」(2025年10月公表予定)

✓査読プロセスの改革による迅速化・見える化

⇒提言の助言手続きの合理化、意思の表出の進捗状況の可視化

✓システムの活用を含む発出した提言等の確実なフォローアップ及び横展開の検討

⇒発出した提言等の確実なフォローアップを実施するためのスケジュール管理の徹底を周知

速やかな意思の表出に向けて取り組む課題

科学技術・イノベーション基本計画

科学者委員会 学術体制分科会

➤ 第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言

2024年11月公表

食品制度

食料科学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・健康・生活科学委員会関係分科会合同※

➤ 国民の健康維持・増進に資する食品制度に関する提案(仮題)

2025年度中

※食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会

生成AI

情報学委員会

➤ 生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて

2025年2月公表

量子技術

情報学委員会

➤ 量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望(仮題)

2025年中

循環経済と自然再興を活かした炭素中立社会への移行に関する検討委員会

➤ 気候危機に対処するための産官学民の総力の結集

—循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への転換—

2025年10月予定

研究力強化

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会

➤ 研究力の危機と再構築: 我が国の学術と社会の持続的発展に向けて(仮題)

2025年中

学術を核とした地方活性化

学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会

➤ 学術を核とした地方活性化の促進(仮題)

2025年中

➤ その他の取組

防災・減災

地方学術会議委員会 【日本学術会議 in 石川 2025年8月に開催】 防災減災学術連携委員会も協力

防災減災学術連携委員会 : 能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え(仮題)

2025年11月予定

2. 学術の発展のための各種学術関係機関との 密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化

(具体的な取組)

- ✓「未来の学術振興構想」の浸透・議論のためのフォーラムの開催及び学術研究振興分科会における更なる検討
 - ⇒「未来の学術振興構想(2023年版)」の改訂に向けて、「学術の中長期研究戦略」の追加募集(2025年4月1日－10月1日)
 - ⇒「学術の中長期研究戦略」の評価を行うとともに、「未来の学術振興のグランドビジョン」の取りまとめを行うため、学術研究振興分科会未来の学術振興構想評価小委員会を設置(2025年9月)
- ✓研究力強化に向けた検討の推進
 - ⇒「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」において提言の検討
- ✓学協会との更なる連携の強化に向けた方策の検討

3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上

(具体的な取組)

✓国際アドバイザリーボードの開催

⇒2025年10月5日に第2回会合を開催

✓世界のリーディングアカデミーとの連携、

アジア学術会議を軸としたアジア地域におけるリーダーシップの発揮

⇒2025年11月に第24回アジア学術会議(於:パキスタン)を開催予定

✓主要国若手アカデミー間の国際連携活動等を通じた次世代育成

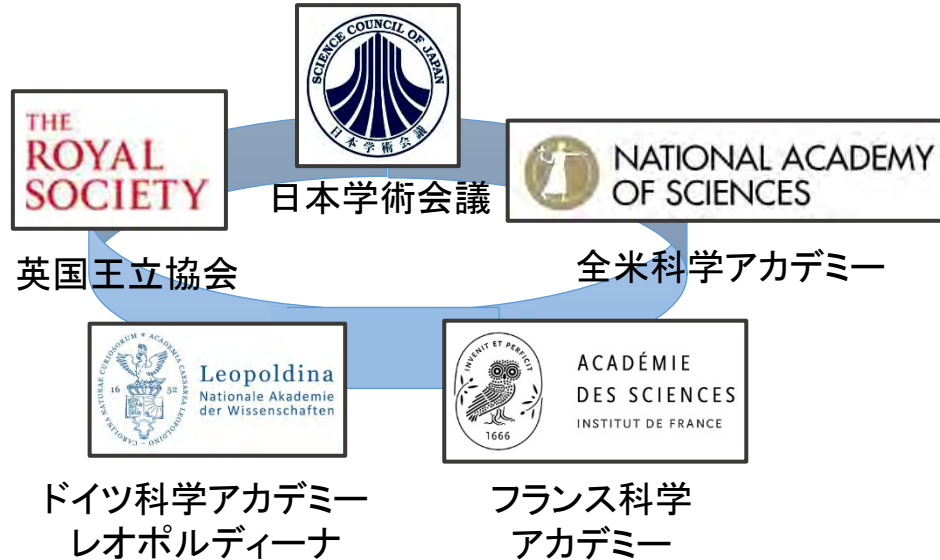
⇒2025年6月に開催された各国から若手研究者が集まるグローバルヤングアカデミー総会(於:インド)に若手研究者2名を日本学術会議の代表として派遣

⇒2025年7月に若手アカデミーがインターアカデミーパートナーシップ(IAP)のYoung Affiliateに加入



第2回国際アドバイザリーボード

メンバー



- 主要4ヶ国（英・独・仏・米）のナショナル・アカデミーと、連携の強化及び日本学術会議の国際活動への助言等を目的として開催。
- 第2回会合では、提言の策定プロセス、発出後の社会的影響力強化等について議論。

<開催概要>

日時 : 2025年10月5日(日) 15:00-17:00
場所 : ザ・プリンス京都宝ヶ池
参加者 : 光石会長、日比谷副会長、三枝副会長、磯副会長 ほか
米 会長、独 会長、英 副会長、仏 元会長



会議風景

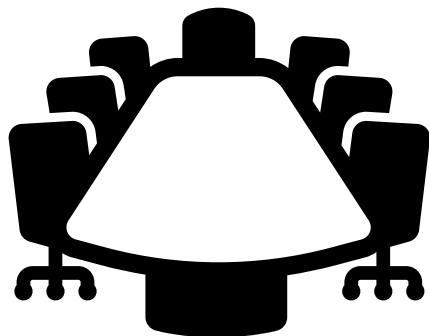
4. 産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、 国民とのコミュニケーションの促進

(具体的な取組)

- ✓ 産業界からの会員・連携会員を核とした産業界との対話の促進
⇒ COCNと、若手研究者の意見交換を実施(2025年7月)

- ✓ 国民とのコミュニケーションの促進の具体化
⇒ 昨年に引き続き、こども霞が関見学デーの実施(2025年8月)

- ✓ 科学リテラシー向上のための取組
⇒ 日本科学未来館との連携方策について検討開始



- 産業界に所属する会員と企画WGで意見交換を実施
 - COCN(産業競争力懇談会)と日本学術会議会長・副会長等との意見交換を実施
 - 産業界の視点から学術会議へ期待することなどをテーマ
 - COCNと、若手研究者の意見交換を実施(2025年7月)
- ⇒ 産業界等とのコミュニケーションにより得られた成果を日本学術会議の活動へ反映

こども霞が関見学デーの実施

- こども(小中学生・幼児等)に向けて、日本学術会議を広く知ってもらう機会を設定
- 「こども霞が関見学デー」にあわせて実施
- 若手アカデミーによる「生き物」や「宇宙」等をテーマにしたこどもにもわかりやすい講演、ミニゲームなどのプログラムを企画



にほんがくじゅつかいぎ
日本学術会議
こども霞が関見学デー

QRコード

令和7年 8月6日(水) 7日(木)
10:00-16:00
会場：日本学術会議庁舎

若手アカデミー連携企画
研究ってなんだろう？ ～研究者といっしょに科学を話そう、科学にふれよう～

いろいろな分野の最新の研究について小学生がわかるように
学術会議の研究者がお話するよ

8月6日のテーマは、
生き物の子育と水滴に秘められた話
8月7日のテーマは
宇宙探査の話、そしてDNAで作物を育てよう

こども学術会議 ～ミライを考えよう～

学術会議の講堂で発表しよう！
歴史ある学術会議の講堂で、
君が考える「ミライ」を発表しよう

かがく探偵になろう！
かくされている絵や文字を実験で
見つけられるよ！

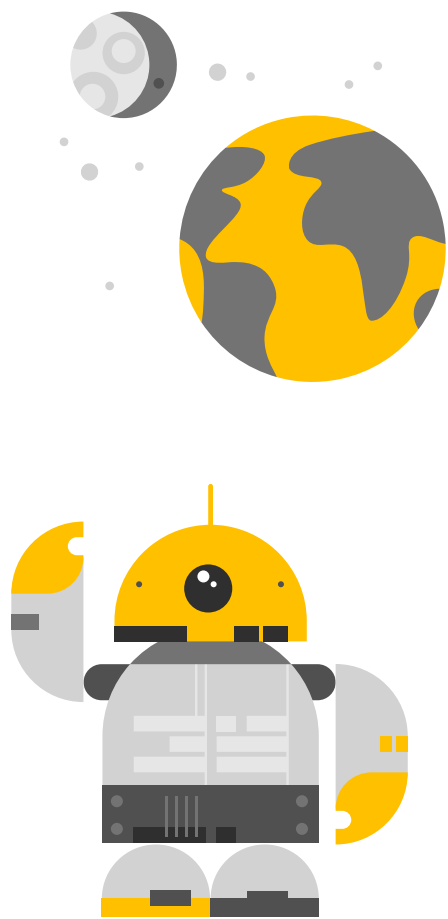
魚つりゲーム
～うまくつれるかな～

宝さがしゲーム
～いきものレスキュー大作戦！～

東京都港区六本木7-22-34
※東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5番出口
(青山公園方面) から徒歩1分



科学リテラシー向上のための取組



- 特に若い世代の科学リテラシー向上のため、全国の科学館・博物館等との連携により日本学術会議の活動を広めていくことが重要
 - 日本科学未来館館長と企画WGで意見交換を実施
 - 日本学術会議へ期待することなどをテーマ
- ⇒ 引き続き意見交換を実施し、日本学術会議との連携方策について検討

5. 学術を核とした地方活性化の促進

(具体的な取組)

✓ 地方学術会議等を活用した地方活性化に関する取組の検討

⇒ 日本学術会議 in 石川の開催(2025年8月2日)

✓ 「学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会」(2025年1月設置)
において、2025年中に意思の表出を予定



日本学術会議in石川 学術講演会

大災害からの復興と
持続的社会的モデルを目指して～
半島地域からの問題提起

参加費
無料

どなたでも参加頂けます

令和6年1月に発生した能登半島地震は、“半島”という地域社会に甚大な被害をもたらしました。この大災害を通して、地域の脆弱性や課題が浮き彫りとなり、今後の復興と持続可能な社会の構築に向けた新たな視点が求められています。本会議は、災害からの復興過程で明らかになった課題を共有した上でこれまでの取り組みを検証し、今後必要なことを探ることを目的としています。



日本学術会議YouTube

能登半島事前訪問(2025年7月18日)

<https://youtu.be/5t29nv5Qf2I?si=vPmBYEFxNHFS3dv8>

日本学術会議in石川(2025年8月2日)

https://youtu.be/2_Izj5vE6Ns?si=58yYOw49WYEBH-AC

6. 情報発信機能の強化

7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

6. 情報発信機能の強化

(具体的な取組)

✓国民・社会を意識したウェブページの充実

⇒**地方学術会議やこども霞が関見学デーの動画の掲載等**

(今後の動画についても検討中)

✓プロフェッショナル人材等の活用

⇒**日本学術会議アドバイザーとしてプロフェッショナル人材を委嘱**

✓若年層への情報発信に向けた検討

7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

(具体的な取組)

✓企画WGによるアクションプランの推進体制の強化

✓アクションプランを踏まえた事務局体制の強化 等

日本学術会議第26期アクションプランについて (より良い役割発揮に向けてとの関係)

日本学術会議のより良い役割発揮に向けて

日本学術会議第26期アクションプラン

1 国際活動の強化

3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上

2 科学的助言機能の強化

1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化

3 対話を通じた情報発信力の強化

6. 情報発信機能の強化

2. 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化

4. 産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進

5. 学術を核とした地方活性化の促進

4 会員選考プロセスの透明性の向上

5 事務局機能の強化

7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

主な国際活動

2025年

- 5月6～8日 Gサイエンス学術会議2025
- 5月22日 中国科学技術協会(CAST)会長との会談
- 6月12日 Gサイエンス学術会議2025共同声明の総理手交
- 7月8～9日 世界科学フォーラム(WSF)2026第1回運営委員会
- 9月23日 サイエンス20(S20)2025
- 10月2日 政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク(INGSA)キリオン会長との会談
及びセミナー
- 10月3日 ニュージーランド首相首席科学顧問との会談
- 10月4～7日 「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」第22回年次総会
- 10月5日 国際学術会議(ISC)会長・次期会長との会談
第2回国際アドバイザリーボード
英国王立協会副会長との会談
- 10月6日 「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」アカデミー・プレジデント会議
オランダ王立芸術科学アカデミー会長との会談
- 10月7日 ドイツ国立科学アカデミー・レオポルディーナ会長との会談

<会長メッセージ>

- 「日本学術会議法案の国会審議について(報告及び今後の対応)」(2025年5月15日)
- 「『日本学術会議第26期1年目(令和5(2023)年10月～令和6(2024)年9月)の活動状況に関する評価』における指摘事項に対する考え方について」(2025年9月29日)

<会長談話>

- 「日本学術会議法案の成立を受けて」(2025年6月12日)
- 「坂口志文先生のノーベル生理学・医学賞受賞、北川進先生のノーベル化学賞受賞を祝して」(2025年10月10日)

組織運営・科学者間の連携 報告

(2025年4月～2025年10月)

- 1 科学者委員会・同分科会
- 2 地区会議
- 3 地方学術会議
- 4 財務委員会

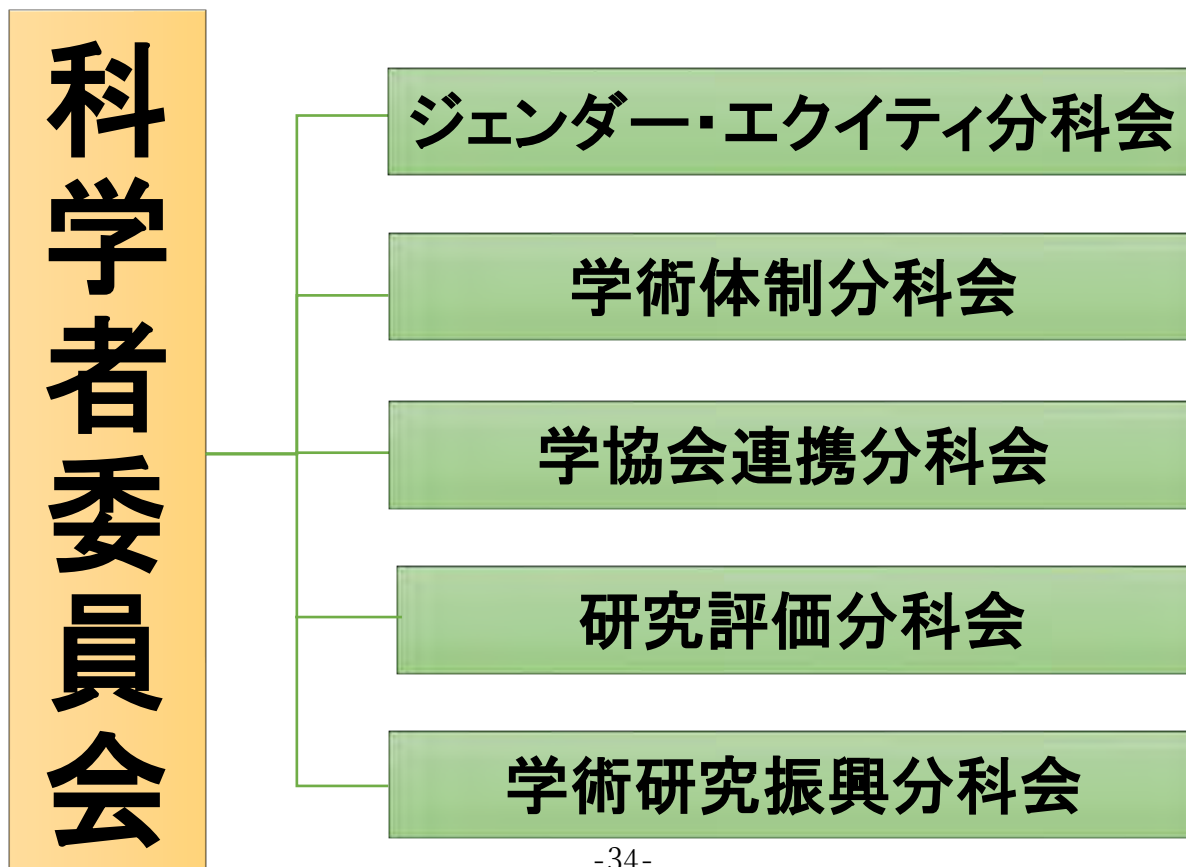
日本学術会議第195回総会(2025年10月27日)

担当副会長 三枝 信子

1 科学者委員会・同分科会

科学者委員会（委員長：三枝 信子）

- 科学者コミュニティに関する全体的課題の検討
- 分科会の課題の調整



1 科学者委員会・同分科会

(1) ジェンダー・エクイティ分科会（委員長：高橋 裕子）

● 科学に関する男女共同参画の推進に関する審議

女性活躍促進目標(30%)の
達成に向けて

- ・大学・研究機関や学協会の実情の調査を基に、改善に向けて検討

ジェンダー関連分科会の
25期までの活動を総括

- ・共通課題を整理し、今後の課題を明確化

学術における
ダイバーシティの推進

- ・現状を調査・分析し、今後の課題を整理

上記の取組によって得られた
知見や改善に向けた課題の
周知・普及

- ・第6次男女共同参画基本計画に対する提言の
発出予定
- ・併せて、包括的反差別法の制定に向けた提言を
発出予定

1 科学者委員会・同分科会

(2) 学術体制分科会（委員長：林 和弘）

● 学術の制度・振興等に関する諸問題の審議

第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けた検討

- ・ 第7期科学技術・イノベーション基本計画（2026年3月までに閣議決定予定）に向けた検討を行い、2024年11月に提言「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」を公表
 - 総合科学技術・イノベーション会議基本計画専門調査会（第2回）（2025年1月17日開催）等において、光石会長及び林委員長からプレゼン
 - その他、**提言のフォローアップ**について検討

その他

- ・ 学術体制・学術法制の国際比較調査・課題の整理
- ・ 中長期的観点から、学術を学際的・文理融合的に推進するための在り方の検討

1 科学者委員会・同分科会

(3) 学協会連携分科会（委員長：三枝 信子）

- 学協会と日本学術会議の連携推進
- 学協会の機能強化に関する諸課題の審議

連携

- ・ 日本学術会議と学協会の新たな連携体制づくりの検討

規定見直し

- ・ 学協会、学会連合、連携体等のあり方を検討するとともに、協力学術研究団体の規定の見直しを検討

■協力学術研究団体

2,204団体(2025年9月現在) ※第26期 74団体承認

1 科学者委員会・同分科会

(4) 研究評価分科会（委員長：尾崎 紀夫）

● 研究評価のあり方についての全体的検討

研究評価の あり方

- 関連する過去の提言等のフォローアップ
- 国内外の研究評価のあり方についての調査
- 分野別研究評価のあり方についての検討
- 若手支援としての研究評価のあり方についての検討

- 年内を目途に「**研究の活性化へ向けた研究評価の具体的な改善方策**」として**提言**を取りまとめ、公表する予定。

1 科学者委員会・同分科会

(5) 学術研究振興分科会(委員長: 森田 一樹)

● 重要な学術研究の計画に関する検討に係る審議

提言「未来の学術振興構想(2023年版)」の周知・普及

- ・ 第25期提言「未来の学術振興構想(2023年版)」の周知・普及を行い、国民等の思いやニーズ・関心を把握するための双方向コミュニケーションの充実を図る。

未来の学術振興構想の更新の検討

- ・ 19の「グランドビジョン」の実現のために必要な「学術の中長期研究戦略」を追加募集するとともに、既掲載の「学術の中長期研究戦略」について「学術研究構想」の進展等に伴う改訂を実施し、それらを踏まえての「未来の学術振興構想」の改訂を実施

➤ 改訂に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募結果

- 公募区分Ⅰ(新規): 24件
- 公募区分Ⅱ(改訂): 前期掲載184件中175件が継続掲載希望
(うち 改訂あり123件、改訂なし52件)

➤ 提案された「学術の中長期研究戦略」の評価等のため「未来の学術振興構想評価小委員会」を設置(2025年9月26日)

1 科学者委員会・同分科会

■開催状況及び主な議題

科学者委員会

第15回～第21回（メール審議）
地区会議主催学術講演会
公開シンポジウムの開催 等

(1) ジェンダー・エクイティ 分科会

◇第9回（メール審議）
・公開シンポジウムの開催
◇第10回（メール審議）
・第6次男女共同参画基本
計画小分科会の設置期間
変更

(2) 学術体制分科会

◇第7回（2025.10.23）
・提言のフォローアップ活動に
ついて 等

(3) 学協会連携分科会

◇第2回 メール審議
・協力学術研究団体の規定
見直し

(4) 研究評価分科会

◇第5回（2025.9.3）
・研究評価に関する提言
案についての検討 等

(5) 学術研究振興分科会

◇第6回（2025.8.28）
・未来の学術振興構想評価
小委員会の設置について
の検討 等
◇第7回（2025.9.24）
・第26期「未来の学術振興構
想」改訂における審査・評価
プロセスについての検討 等

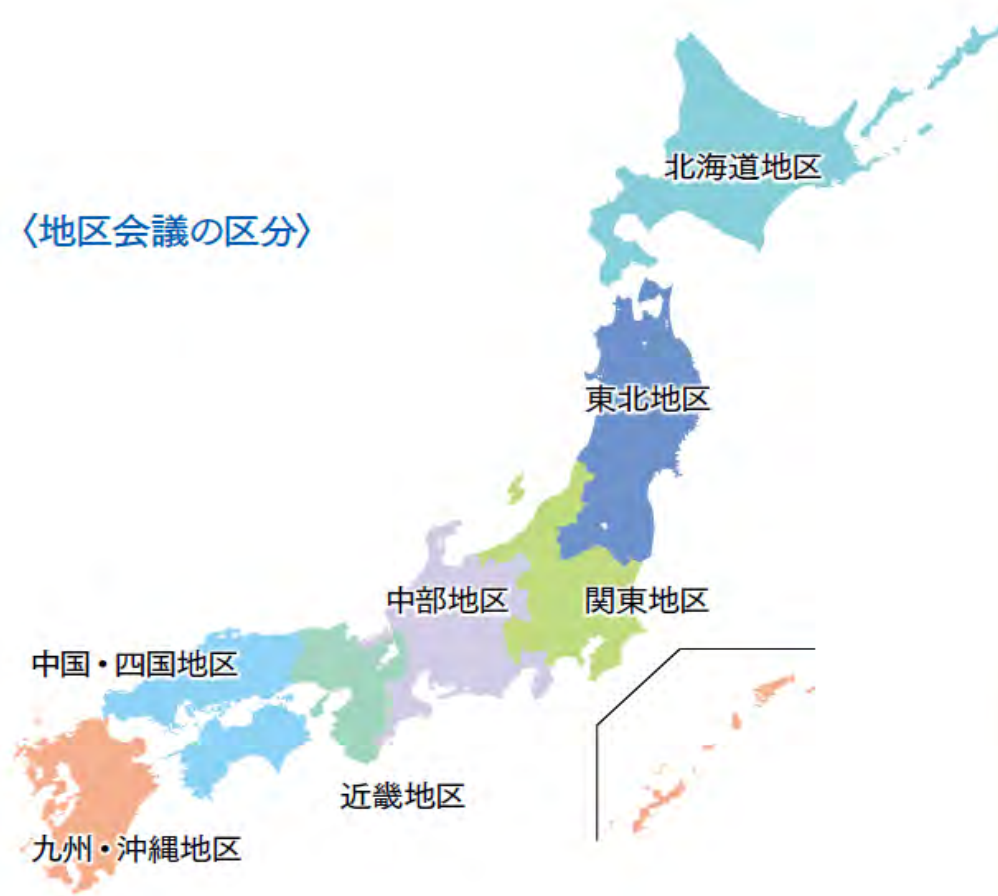
2 地区会議

地区会議

- 日本学術会議と科学者間の意思疎通
 - ・ 地区の科学者等への日本学術会議の諸活動の周知
 - ・ 日本学術会議に対する意見、要望の汲み上げ
- 地域社会の学術の振興
 - ・ 科学者との懇談会や学術講演会等の開催
 - ・ 地区会議ニュース等の発行
 - ・ 地域社会の学術の振興に資する事業の推進

◆ 地方連絡委員会議の開催

各地区会議の活動の活性化、学術会議や各地区との連携強化の観点から、地方連絡委員（各地区の関係大学事務局職員に委嘱）に参加いただき、2025年3月より「地方連絡委員会議」を開催し、活動状況の情報共有や課題解決に向けた意見交換などを行っている。



2 地区会議

◆ 学術講演会（2025年4月～2025年12月）※今後の開催予定も含む

開催日	地区	開催形式	演題	挨拶	参加者	備考
8月7日 (木)	北海道	北海道大学 (ハイブリッド開催)	「次の新興・再興感染症にどう備えるか」	—	345名	第二部会、北海道大学と共催
8月7日 (木)	東北	東北大学 (ハイブリッド開催)	「研究者になって世界を駆け巡ろうⅡ～研究者の卵たちと共に未来を描く～」	光石会長	230名	第三部会、東北大学と共催
8月10日 (日)	北海道	函館市亀田交流プラザ (ハイブリッド開催)	「AI時代に「対話」の意味を考える—熟議がつむぐ知と社会」	日比谷副会長	247名	第一部会、公立はこだて未来大学と共催
9月13日 (土)	近畿	京都大学 (ハイブリッド開催)	「社会の持続可能性と水問題」	三枝副会長	351名	京都大学と共催
11月29日 (土)	中国 四国	鳥取大学 (ハイブリッド開催)	「持続可能な未来への挑戦：限界地域におけるイノベーションと総合知」	磯副会長 (オンライン)	—	鳥取大学と共催
12月5日 (金)	九州 沖縄	熊本大学 (ハイブリッド開催)	「半導体が創る熊本の未来」	日比谷副会長	—	熊本大学と共催
12月12日 (金)	中部	名古屋大学 (ハイブリッド開催)	「これからのモビリティと社会受容性 ～自動運転実用化への課題と挑戦」 (仮題)	三枝副会長	—	名古屋大学と共催

◆ 地区会議ニュース

(2025年3月発行) 北海道地区(No55)、東北地区(No39)、中部地区(No157)、近畿地区(No34)、中国・四国地区(No56)、九州・沖縄地区(No123)

※各地区の会員・連携会員の他、教育機関・研究機関等に配布するとともに、学術会議ホームページにも掲載

3 地方学術会議

● 地方創生に関する取組強化のため、2018年度(平成30年度)から開催

◆ 開催状況(第24期～第26期)

- 「日本学術会議 in京都」(2018.12.22)
共催: 京都産業大学、京都府立大学、京都大学
- 「日本学術会議 in北海道」(2019.2.16)
共催: 北海道大学
- 「日本学術会議 in富山」(2019.6.28)
共催: 富山大学
- 「日本学術会議 in山口」(2020.9.27)
共催: 山口大学
- 「日本学術会議 in福岡」(2022.2.23)
共催: 九州大学
- 「日本学術会議 in宮城」(2022.11.5)
共催: 東北大学
- 「日本学術会議 inつくば」(2023.2.15)
共催: 国立研究開発法人 防災科学技術研究所、
同 国立環境研究所
- 「日本学術会議 in石川」(2025.8.2)
共催: 金沢大学

➤ 第26期地方学術会議委員会

- 地方学術会議に関する事項について審議

開催状況

- ◇ 第1回 (2024.3.28)
役員の選出、地方学術会議の今後の進め方について
- ◇ 第2回 (2024.10.28)
地方学術会議の今後の進め方について

3 地方学術会議

●「日本学術会議in石川」の開催(2025.8.2 於:金沢市)

- 「大災害からの復興と持続的社会のモデルを目指して～半島地域からの問題提起」をテーマとして、金沢大学との共催で開催 ※第2部参加者351名(関係者、報道含む)
- 【第1部】地域課題に関する**地域のリーダー等との意見交換会**



【第1部】意見交換会で発言する光石会長と竹内防災減災学術連携委員会委員長

- 【第2部】**地域で活躍する若手6名**によるパネルディスカッションを含む**学術講演会**(ハイブリッド開催)



【第2部】パネルディスカッションの様子

日本学術会議in石川 学術講演会

大災害からの復興と持続的社会のモデルを目指して～半島地域からの問題提起

令和7年1月に発生した能登半島地震は、“半島”という地域社会に甚大な被害をもたらしました。この大災害を通して、地域の脆弱性や課題が浮き彫りとなり、今後の復興と持続可能な社会の構築に向けた新たな視点が求められています。本会議は、災害からの復興過程で明らかになった課題を共有した上でこれまでの取り組みを検証し、今後必要なことを探ることを目的としています。

参加費無料

総合司会：松井 三枝 (金沢大学国際基幹教育院 教授)

13:30-13:40 開会挨拶

光石 衛 (日本学術会議会長)

和田 隆志 (金沢大学長)

熊 浩 (石川県知事)

13:40-13:50 趣旨説明

福森 義宏 (金沢大学名誉教授)

13:50-15:45 I 学術講演

司会：中村 慎一 (金沢大学理事 (研究・社会共創・大学政策担当) / 副学長)

① 石川県における創造的復興に向けた取り組みについて

新田 弘幸 (石川県能登半島地震復興・復興推進部長)

② 能登半島山奥未来創造センターが見える能登の復興と日本の未来

谷内江 昭宏 (金沢大学理事 (附属病院・国際交流・大学基金担当) / 副学長、能登半島山奥未来創造センター長)

③ 北陸先端大の産学連携活動と能登半島復興支援への取り組み

寺野 稔 (北陸先端科学技術大学院大学長)

④ 能登半島地震・豪雨災害からの復興の空間計画的課題

絶浦 道生 (東北大学災害科学国際研究所 教授)

⑤ 日本学術会議における活動報告と提言

一瀬 基化 (日本学術会議連携委員・防災復興学術連携委員会委員、工科大学建築部 まちづくり学科 教授)

久田 嘉章 (日本学術会議連携委員・防災復興学術連携委員会委員、工科大学建築部 まちづくり学科 教授)

総合討論

休憩 (15分)

16:00-17:30 II パネルディスカッション

能登未来を担う若手による能登復興への提言

モデレータ 佐無田 光 (日本学術会議連携委員、金沢大学総合研究域 教授)

パネリスト 北澤 晋太郎 (NPO法人グアッソー 理事長)

小山 基 (能登DMC合同会社 CMO)

新谷 健太 (能登みだ産 運営部長)

馬場 千遥 (能登半島復興まちづくり事業協同組合 事務局長)

山口 敦子 (有限会社山本電 能登店長)

山下 祐介 (のと能登フェーム 代表)

17:30-17:35 閉会挨拶

高田 広章 (日本学術会議第三部委員・中部地区学術代表幹事、名古屋大学未来創造機構 教授)

開催日時

令和7年 8月2日(土)

13:30 - 17:35

開催場所

金沢市アートホール

石川県金沢市本町2丁目15番1号 ビル5F金沢6F

JR金沢駅南口より徒歩2分

開催形式

ハイブリッド開催

・対面 定員250名

・オンライン 定員500名

参加方法

7月30日(水)までに下記URLまたは2次元コードからお申し込みください。

定員に限りあり。事前申込の受付は終了します。

<https://www.formzu.net/fgen/S12764568/>

お問い合わせ先

金沢大学研究推進部研究企画課

TEL : 076-264-6198

E-mail : scj-isk@adm.kanazawa-u.ac.jp

<主催> 日本学術会議 <共催> 金沢大学

<後援> 石川県、北陸先端科学技術大学院大学

4 財務委員会

財務委員会（委員長：三枝 信子）

●2024年度 決算報告

2024年度の審議等予算にかかる手当や旅費を中心とした日本学術会議全体の執行結果について取りまとめを行い、報告をした。

●2025年度 審議等予算の執行管理

引き続き、各部の予算計画・執行管理は各部に委ねながら、事務局との間においても緊密な連携を図る。また、財務委員会においても予算執行状況を注視し情報の共有を図るとともに、柔軟な予算管理に努める。

●2026年度 審議等予算の配分計画

2026年度の審議等予算について、これまでの執行状況や時勢を踏まえ、総会や部会、各種委員会に対して適切な配分を行う。

日本学術会議総会報告

政府、社会及び国民等との関係

(2025.4～2025.10)

- 1 科学と社会委員会
- 2 課題別委員会
- 3 広報委員会
- 4 科学的助言等対応委員会

2025年10月27日
担当副会長 磯 博康

1. 科学と社会委員会

(委員長:磯 博康)

国民生活に科学を反映浸透させ、科学に対する理解の増進を図る。

■会議開催状況

年次報告検討分科会 第3回(2025.7.31) 年次報告作成方針等について
第4回(2025.10.14) 年次報告書(案)等について

■サイエンスカフェの実施状況(2025.4.1～2025.9.30 計3回)

開催日	テーマ	地域	開催場所
2025年6月21日	おいしさ。その正体、放射光ではかれます。	宮城	東北大学青葉山新キャンパス青葉山コモンズ
2025年8月6日 7日 ※いずれの回も午前・午後に実施	若手アカデミー連携企画「研究ってなんだろう?—研究者といっしょに科学を話そう、科学にふれよう」 (合計4回)	東京	日本学術会議庁舎講堂・6階A会議室 ※「こども霞が関見学デー」のイベントとして開催
2025年8月7日	「ながれ」のコンピュータシミュレーションと航空機開発	和歌山	和歌山県立向陽高等学校

※2024年10月～2025年3月に徳島、京都、北海道で計3回実施(第194回総会において報告済)

2. 課題別委員会

社会が抱えるその時々課題のうち特に重要な課題について日本学術会議において審議し、科学者コミュニティを集約した適切な意見を時宜に応じて提言する。

	委員会名	設置時期	委員数	委員会 開催実績 (今期累計)
1	防災減災学術連携委員会	2024年1月25日	22名	9回
2	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会	2024年2月29日	20名	6回
3	循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会	2024年5月31日	15名	16回
4	我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会	2024年8月30日	19名	12回
5	学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会	2025年1月23日	16名	4回

3. 広報委員会

(委員長:磯 博康)

広報委員会

■日本学術会議の広報全般について審議

第1回(2023.11.15) 役員の選任、分科会の設置、学術会議広報の進め方について議論

第2回(2024.6.25) 学術会議広報(ホームページ、パンフレット、動画、学術の動向)について議論

※国内外情報発信強化分科会と合同開催

「学術の動向」編集分科会

■「学術の動向」の企画及び編集に関することを審議

■日本学術協力財団の編集委員会と協力

第1回(2023.12.21) 役員の選任、『学術の動向』の編集について議論

第2回(2024.2.20)、第3回(2024.5.8)、第4回(2024.8.16) 『学術の動向』の編集について議論

第5回(2025.1.27) 『学術の動向』の休刊と今後の情報発信の進め方について議論

第6回(2025.5.1) 『学術の動向』の今後の展望についての検討

国内外情報発信強化分科会

■日本学術会議の活動に係る国内・海外への情報発信に関することを審議

第1回(2024.2.8) 役員の選出、分科会、学術会議広報の進め方について議論

第2回(2024.3.28) 学術会議広報(ホームページ、年次報告、パンフレット、ニュースメール、SNS、SSH等次世代へのリーチ、学術の動向、地域等との連携)について議論

第3回(2024.6.25) ※広報委員会と合同開催

3. 広報委員会

(委員長:磯 博康)

広報活動強化の具体的な取組

動画・SNSによる情報発信

●学術会議YouTubeチャンネル



地方学術会議やこども霞が関見学デーなどの活動を積極的に広報

●学術会議X

ハッシュタグも活用した
各種イベントの効果的な発信



学術会議ホームページ

トップページの「スライダー」や「What's new」を活用し、総会声明や国際会議の開催、学術フォーラムや公開シンポジウムの開催などを積極的に発信



今後の取組の予定

- 一般向けに「提言等の分かりやすいパンフレット・動画」の作成
- 日本学術会議ニュース・メールの内容拡充
- 短い動画コンテンツ(ショート動画)の作成・検討
- 法人化に伴うホームページ改修に向けた各種検討

➡ 広報・コミュニケーションのプロフェッショナル人材を広報アドバイザー・学術調査員として委嘱・採用し、コンテンツの作成や助言を得る体制を整えている

3. 広報委員会

(委員長:磯 博康)

学術フォーラム、公開シンポジウム等の参加者数等について(2025年1月～8月)

(注)・学術フォーラム、地方学術会議、地区会議、国際会議、公開シンポジウム、共同主催国際会議市民公開講座、講演会について、参加者数等を取りまとめたもの。

・Xいいね数は、集計時点の数値であり、その後変動があり得る。

	開催件数	参加者数			X いいね数	マスコミ等の反応 (事後報道の有無)
		現地	オンライン	合計		
1月	9	674	1,918	2,592	約110	日経グローバル、原子力産業新聞
2月	4	107	889	996	約50	サイエンスポータル (JST)
3月	21	1,310	3,495	4,805	約230	教育とICT Online - 日経BP
4月	5	587	107	694	約100	—
5月	10	331	838	1,169	約100	—
6月	13	274	3,200	3,474	約180	—
7月	10	579	1,772	2,351	約80	月刊OPTRONICS、オーストラリア南極プログラムパートナーシップ (AAPP) のウェブページ
8月	10	871	1,373	2,244	約50	北陸中日新聞、北國新聞、NHK、北海道新聞
合計	82	4,733	13,592	18,325	約900	

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

■任 務

- 部、委員会、分科会又は若手アカデミーから申し出のあった検討課題と骨子案に対する**助言**
- 勧告、答申、要望、声明、提言又は回答の案を**査読**
- 見解の案を**審議、承認**
- 部、委員会(分野別委員会を除く)又は若手アカデミーが作成する報告の案を**審議、承認**
- 勧告、要望、声明、提言又は見解に関する事後的な評価の**報告**
(フォローアップ・インパクトレポート)を受ける

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

■ 意思の表出の質の確保を図るため、第25期から幹事会の下に設置

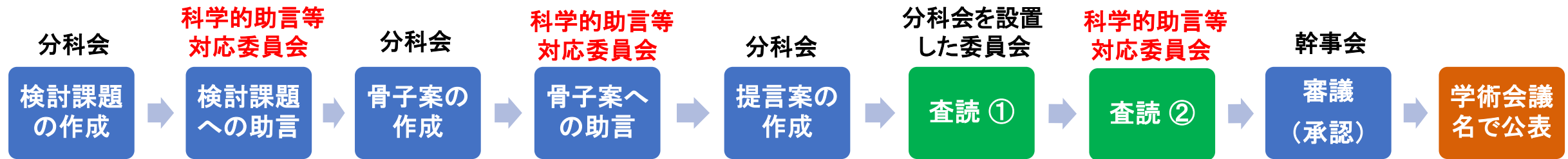
1. 意思の表出の種類(全8種類)

- ① 政府からの諮問に対する「**答申**」
- ② 関係機関からの審議依頼に対する「**回答**」
- ③ 政府に実現を強く勧める「**勧告**」
- ④ 政府や関係機関等実現を望む「**要望**」
- ⑤ 政府や関係機関、広く社会に向けて意見を表明する「**声明**」
- ⑥ 政府や関係機関、広く社会に向けて、総合的・俯瞰的な見地から提案する「**提言**」
- ⑦ 政府や関係機関、広く社会に向けて、専門的な見地からの提案や意見の提示を
分科会名等で行う「**見解**」
- ⑧ 審議の結果を分科会名等で発表する「**報告**」

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

2. 「提言」案の査読



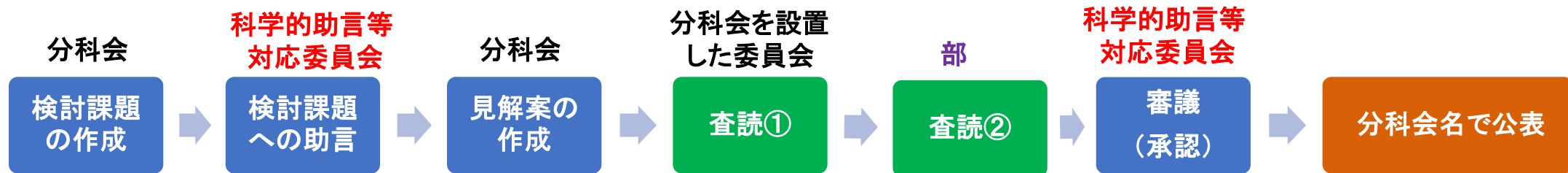
【具体例】2024年11月に「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」を公表した科学者委員会学術体制分科会の場合



4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

3. 「**見解**」案の審議(承認)



4. 「**報告**」案の検討課題への助言



4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

第26期科学的助言等対応委員会で申出書を受理した意思の表出件数(2025年10月16日現在)

	提言	見解	報告	計
機能別委員会	5 (1)	0	0	5 (1)
分野別委員会	6 (1)	3 4	1 5	5 5 (1)
第一部	0	1 6	5	2 1
第二部	3	8	7	1 8
第三部	3 (1)	1 0	3	1 6 (1)
部附置分科会	0	0	0	0
課題別委員会	3	1	0	4
若手アカデミー	0	2	0	2
計	1 4 (2)	3 7	1 5	6 6 (2)

- (注) ・意思の表出の種類、表題等は、作成手続の過程で変わり得る。申出書等で「見解又は報告」とあるものは、便宜上「見解」に分類した。
- ・作成分科会等が複数連名の案件は、便宜上、主たる窓口となっている分科会等に分類した(例:機能別委員会と部附置分科会連名の案件は、機能別委員会に分類)。
- ・括弧付き数字は、既に公表済みの件数(内数)。

【参考】 前期(第25期)の意思の表出件数: 提言 8件 見解 37件 報告 27件 合計72件

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

本委員会で申出書を受け付けた意思の表出一覧(2025年10月16日現在)

※意思の表出の種類・表題等は、現時点のものであり、作成手続の過程で変わり得る。

※一覧表の案件名は、科学的助言等対応委員会で申出書を受理した順に記載している。(番号は、本委員会で付与した整理番号。)

26-001は申出書が取り下げられたため欠番。



公表済



査読又は承認フェーズ

- 26-002 **提言**「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」(科学者委員会学術体制分科会) ※2024年11月28日公表
- 26-003 **提言**「わが国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」(食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会) **COIを公表予定**
- 26-004 **提言**「生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて」(情報学委員会) ※2025年2月27日公表
- 26-005 **提言**「量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望(仮題)」(情報学委員会)
- 26-006 **見解**「脳科学研究とその臨床応用に関わる倫理的課題について(仮題)」(基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会、臨床医学委員会移植・再生医療分科会)
- 26-007 **見解**「教育データの利活用のさらなる促進に向けて」(情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会)
- 26-008 **報告**「DNA親子鑑定の実用化がもたらす家族間の揺らぎと法的・社会的課題」(臨床医学委員会臨床ゲノム医学分科会)
- 26-009 **提言**「研究力の危機と再構築：我が国の学術と社会の持続的発展に向けて」(我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会)
- 26-010 **見解**「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき課題－フォローアップ(仮称)」(若手アカデミー)

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

- 26-011 見解「学術とスタートアップの両輪での推進に向けて(仮称)」(若手アカデミー)
- 26-012 見解「女性の政治参画を進めるための制度改革と環境整備について」(政治学委員会民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会、法学委員会ジェンダー法分科会)
- 26-013 報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 薬学分野」(薬学委員会薬学教育参照基準検討分科会)
- 26-014 提言「研究の活性化へ向けた研究評価の具体的な改善方策(仮称)」(科学者委員会研究評価分科会)
- 26-015 提言「気候危機に対処するための産官学民の総力の結集ー循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への転換ー」(循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会)
- 26-016 提言「壊滅的災害発生が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」(土木工学・建築学委員会IRDR分科会)
- 26-017 見解「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」(防災減災学術連携委員会)
- 26-018 提言「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正の実現を目指して」(科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会)
- 26-019 提言「差別のない社会を目指して～包括的反差別法の制定に向けた提言～」(科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会)
- 26-020 報告「復興アーカイブと社会的モニタリングの機能強化を目指して(仮称)」(社会学委員会災害を克服する地域社会と社会的モニタリング検討分科会)

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

- 26-021 **見解**「新たな音響学の学術領域の創成とそれを推進するコンソーシアムの創設に向けて」(総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会)
- 26-022 **報告**「高等学校の生物教育における重要用語の選定について(再改訂)」(基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会)
- 26-023 **見解**「情報教育課程の設計指針—初等教育から高等教育まで(改訂)」(情報学委員会情報学教育分科会)
- 26-024 **見解**「AI活用時代における経営教育の変革」(経営学委員会AI時代に備える経営人材育成に関する分科会)
- 26-025 **見解**「現代の新生児医療における倫理的意思決定基準および代理意思決定の考え方」(臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同出生・発達分科会)
- 26-026 **見解**「ケア共同社会の実現に向けたケアサイエンスの展望(仮称)」(健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会)
- 26-027 **見解**「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材」(健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会)
- 26-028 **提言**「学術を核とした地方活性化の促進(仮題)」(学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会)
- 26-029 **見解**「高齢者の健康と生活に与える環境の影響:学際領域の研究成果の融合(仮称)」(健康・生活科学委員会高齢者の健康・生活分科会)
- 26-030 **報告**「Soil Health(土壌の健康):国民的理解と持続可能な管理のイノベーションの推進」(農学委員会土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同IUSS分科会、農学委員会植物保護科学分科会)

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

- 26-031 **報告**「現代社会における多様なリスクに対する法的・政策的対応(仮題)」(法学委員会リスク社会と法分科会、環境学委員会環境政策・環境計画分科会)
- 26-032 **報告**「歯学分野の研究力の推移、および歯学領域が抱える課題(仮題)」(歯学委員会、歯学委員会基礎系歯学分科会、歯学委員会病態系歯学分科会、歯学委員会臨床系歯学分科会)
- 26-033 **見解**「加熱式タバコ使用を含めた喫煙行動の調査・モニタリングの必要性について」(健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会)
- 26-034 **見解**「活動的縁辺域における持続可能な洋上風力発電開発に向けた海底地質リスク評価予測と対策に関するガイドライン」(総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会)
- 26-035 **見解**「ESD充実のための地理教育における小学校・中学校・高等学校までの一貫カリキュラムに向けて(仮称)」(地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育・ESD分科会)
- 26-036 **提言**「未来の学術振興構想(2026年版)(仮題)」(科学者委員会学術研究振興分科会)
- 26-037 **報告**「価値とイノベーションの創発による福祉システムの共創(仮題)」(社会学委員会価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会)
- 26-038 **提言**「生活習慣病予防のさらなる推進に資する適切な用語・専門職及び多職種連携教育(仮)」(健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会)
- 26-039 **見解**「ジェンダー統計充実に向けた性別情報の意義(仮題)」(社会学委員会ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会)

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

- 26-040 **見解**「人文・社会科学におけるオープンサイエンスを踏まえた質的研究のためのデータ基盤の形成(仮題)」(地域研究委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・社会学委員会・史学委員会・法学委員会・経営学委員会・情報学委員会合同デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会)
- 26-041 **見解**「言語的少数者との共生のための、言語権概念の『学習指導要領』への導入(仮称)」(言語・文学委員会言語コミュニケーションと共生分科会)
- 26-042 **見解**「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題(仮題)」(総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会)
- 26-043 **報告**「心についての科学教育の未来像～よりよい社会を実現するために～」(心理学・教育学委員会心の科学のキャリアパス構築分科会)
- 26-044 **見解**「サーキュラーエコノミーの社会経済システムに資源循環を機能させるために克服すべき学術課題」(材料工学委員会・環境学委員会・総合工学委員会合同サーキュラーエコノミーのための資源・材料の循環利用検討分科会)
- 26-045 **見解**「サービス化社会における共創価値の尺度について(仮題)」(経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会)
- 26-046 **報告**「未来の学術振興構想に基づく材料工学の中長期研究戦略」(材料工学委員会材料工学中長期研究戦略分科会)
- 26-047 **見解**「ALPS処理水の海洋放出の影響評価と課題」(総合工学委員会原子力安全に関する分科会)
- 26-048 **見解**「国立心理科学研究所(仮称)構想の推進」(心理学・教育学委員会心の総合基礎分科会)
- 26-049 **見解**又は**報告**「縮小社会を前提とした持続可能な国土・地域を構想するために(仮題)」(地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会)

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

- 26-050 **見解**「今に生きる・活かす古典—倫理・道德教育における古典活用の可能性(仮題)」(哲学委員会・心理学・教育学委員会合同今に生きる・活かす古典を考える分科会)
- 26-051 **提言**「わが国における獣医学の担う社会的役割の長期展望とその対応」(食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会)
- 26-052 **見解**「終末期・人生の最終段階における治療中止・差し控えと安楽死の法制化をめぐる現状と課題(仮称)」(哲学委員会現代における「いのち」を考える分科会)
- 26-053 **報告**「不安定化する世界における地域研究の社会連携体制の構築:現状と課題(仮称)」(地域研究委員会地域研究社会連携分科会)
- 26-054 **見解**「性的マイノリティの権利保障をめざして(Ⅲ)——司法判断の進展をふまえて」(法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会)
- 26-055 **見解**「婚姻の平等実現に向けた民法改正への提言～相次ぐ違憲判決をふまえて～」(法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会)
- 26-056 **見解**「「歴史教育」をとりまく「無意識のバイアス」の克服——ジェンダー史の視点から学習者をエンパワーメントする—(仮)」(史学委員会ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会)
- 26-057 **報告**「先進技術システムのリスクアセスメントの構造について」(総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会)
- 26-058 **見解**「老朽・遺棄化学兵器廃棄にかかる課題とリスク管理に関する今後の在り方」(総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会)

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

- 26-059 **見解**「粒子線がん治療産学共同研究および社会実装の国際的競争力増強の支援(仮称)」(臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会)
- 26-060 **見解**「地名問題の総合的解決に向けてー地名問題の共有化・データベース化・国際連携の三位一体アプローチー(仮題)」(地域研究委員会地域情報分科会)
- 26-061 **見解**「女性活躍を支える家族のウェルビーイングとワークライフバランスの実現」(経済学委員会ワークライフバランス研究分科会)
- 26-062 **見解**「サイバーセキュリティ研究・教育・業務推進における法的・倫理的課題」(情報学委員会サイバーセキュリティ分科会)
- 26-063 **見解**「カーボンニュートラル施策推進のためのリスク検討フレーム」(総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会)
- 26-064 **報告**「移植医療と再生医療の現状と課題について」(臨床医学委員会移植・再生医療分科会)
- 26-065 **報告**「子どもの生活を基盤とした子どもの育ちと子育てを支援する社会の実現に向けて」(健康・生活科学委員会生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会)
- 26-066 **見解**「産業生物におけるゲノム編集技術の現状と課題」(農学委員会・食料科学委員会合同産業生物バイオテクノロジー分科会)
- 26-067 **報告**「海底下地層における二酸化炭素貯留施策推進の課題」(総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会)

【参考】2025年4月総会における磯副会長報告資料（抜粋）

意思の表出の作成に関して、各委員会・分科会へのお願い

1 意思の表出を行う時期について

今期3年間における意思の表出は、原則、今期末の9カ月前（2025年12月末）までを目途に発出できるように努めていただきたい。これに間に合わない場合でも遅くとも今期末の6カ月前（2026年3月末）までに発出していただきたい。

今期の最後の1年間は、原則、各関係機関等への周知、シンポジウム、フォローアップ等に充てていただきたい。

以上を確実に実行するために、余裕を持ったスケジュール設定、スケジュール管理をお願いしたい。

2 各委員会・部等における査読について

意思の表出手続きに関して、各委員会・部等で行う「査読」手続きを迅速に行うために、意思の表出の案文が出来上がってから査読者を決めるのではなく、前もって査読者を決め、査読手続きが査読者の人選等で滞ることがないようにしていただきたい。

【参考】2025年4月総会における磯副会長報告資料（抜粋）

■2025年12月末までに「**提言**」を公表する場合、スケジュールを逆算すると

2025年12月 幹事会が「提言案」を**審議**（承認後、公表）

10月～12月 科学的助言等対応委員会が「提言案」を査読② ※1

8月～10月 分野別委員会が「提言案」を査読① ※1

短縮可能 — 7月中 科学的助言等対応委員会が「提言の骨子案」に助言 ※2

6月中 分科会は、科学的助言等対応委員会に「提言の骨子案」を提出

5月中 科学的助言等対応委員会が「申出書」に助言 ※2

2025年4月中 分科会は、関係する委員会や分科会・部と事前調整の上、
科学的助言等対応委員会に検討課題等を提出（「申出書」） ※2

※1 査読者の速やかな人選や、査読意見を踏まえた修正案の速やかな提出により、査読期間短縮の可能性

※2 「申出書」に「提言の骨子案」が添付されている場合はまとめて助言を行うため、助言期間短縮の可能性

【参考】2025年4月総会における磯副会長報告資料（抜粋）

■2025年12月末までに「**見解**」を公表する場合、スケジュールを**逆算**すると

2025年10月～12月 科学的助言等対応委員会が「見解案」を**審議** ※1 （承認後、公表）

8月～10月 部の役員会が「見解案」を査読② ※2

6月～8月 分野別委員会が「見解案」を査読① ※2

5月中 科学的助言等対応委員会が「申出書」に助言

2025年 4月中 分科会は、関係する委員会や分科会・部と事前調整の上、
科学的助言等対応委員会に検討課題等を提出（「申出書」）

※1 審議結果を踏まえた修正案の速やかな提出により、審議期間短縮の可能性

※2 査読者の速やかな人選や、査読意見を踏まえた修正案の速やかな提出により、査読期間短縮の可能性

【参考】2025年4月総会における磯副会長報告資料（抜粋）

■2025年12月末までに「報告」を公表する場合、スケジュールを逆算すると

2025年10月～12月 部の役員会が「報告案」を審議 ※1（承認後、公表）

8月～10月 分野別委員会が「報告案」を査読 ※2

7月中 科学的助言等対応委員会が「申出書」に助言

2025年 6月中 分科会は、関係する委員会や分科会・部と事前調整の上、科学的助言等対応委員会に検討課題等を提出（「申出書」）

※1 審議結果を踏まえた修正案の速やかな提出により、審議期間短縮の可能性

※2 査読者の速やかな人選や、査読意見を踏まえた修正案の速やかな提出により、査読期間短縮の可能性

日本学術会議 国際活動報告 (2025年4月～2025年10月)



2025年10月27日 第195回総会
第26期 日本学術会議副会長(国際活動担当)
日比谷 潤子



第26期の活動方針

日本学術会議のより良い役割発揮に向けた検討や日本学術会議の国際戦略を踏まえ、国際活動のさらなる発展を目指す

1. 地球規模課題等への対応について、各国アカデミーや国際学術団体等との交流や連携強化
 - ✓ 国際学術会議(ISC)への積極的参画や、インターアカデミーパートナーシップ(IAP)等加入国際学術団体等に対するより一層の貢献
 - ✓ Gサイエンス学術会議(S7)やサイエンス20(S20)等における各国アカデミーとの連携強化
 - ✓ 次世代科学者の参加機会の創出・拡大
 - ✓ 継続的な国際活動の実施の検討
2. アジア地域におけるリーダーシップの発揮
 - ✓ アジア学術会議(SCA)の運営・開催等
3. 国内外に向けた情報発信の強化
 - ✓ 日本学術会議の国際活動、その成果のわかりやすい発信



国際活動の全体像

国際学術団体等への加入・貢献

国際学術会議 (ISC)
International Science
Council

InterAcademy Partnership
(IAP)

学術領域別・地域別
国際学術団体

役員・代表の派遣

各アカデミー

Gサイエンス
学術会議(S7)

サイエンス20
(S20)

連携と
交流



事務局

主催・共同主催

アジア学術会議(SCA)
の運営・開催

Future Earth(FE)国際
事務局の活動支援

国際会議・シンポジウムの開催



報告内容

1. 国際アドバイザリーボード
2. 各国アカデミーとの連携・交流
 - ① Gサイエンス学術会議(S7)、②サイエンス20 (S20)、③二国間交流、
 - ④アカデミー・プレジデント会議(APM)、⑤世界科学フォーラム(WSF)
 - ⑥政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク(INGSA)
3. 加入国際学術団体等への貢献
 - ①代表派遣、②国際学術会議(ISC)、
 - ③インターアカデミーパートナーシップ(IAP)
4. 国際会議の共同主催及び後援
5. 国際会議の主催(持続会議)
6. アジア学術会議(SCA)の運営
7. フューチャー・アースの国際的展開
8. 国内外に向けた情報発信



1. 第2回国際アドバイザリーボード

・主要4か国(英・独・仏・米)のナショナルアカデミーと、
意思の表出の社会的影響力強化等について議論。



参加メンバー

<開催概要>

日時 : 2025年10月5日(日)15:00-17:00
場所 : ザ・プリンス京都宝ヶ池
参加者 : 光石会長、日比谷副会長、
磯副会長、三枝副会長、
吉田第一部長、関谷企画WG副主査
英 副会長、独 会長、仏 元会長、米 会長



会議風景

2. 各国アカデミーとの連携・交流

①Gサイエンス学術会議（Science7（S7））

- ✓ G7サミット参加各国アカデミーがG7サミットに向けた科学的な政策提言を作成し、共同声明として公表。

- 2025年5月6日から8日にかけて、カナダ王立協会科学アカデミー主催のもと、カナダ・オタワにおいてGサイエンス学術会議2025が開催され、日比谷日本学術会議副会長が参加。会議では、下記のテーマに関するパネルディスカッションが行われ、共同声明をカナダ政府首席科学技術顧問へ手交。

共同声明テーマ		
先進技術とデータ・セキュリティ Advanced Technologies and Data Security	気候変動対策と健康レジリエンス Climate Action and Health Resilience	持続可能な移住 Sustainable Migration

- 日比谷副会長は、「先進技術とデータ・セキュリティ」のセッションにパネリストとして登壇し、他のアカデミーの代表者等と意見交換を実施。
- 6月12日には、光石会長と日比谷副会長が石破総理（当時）を表敬し、共同声明等を手交。



各国アカデミー代表等



セッションに登壇する日比谷副会長



共同声明等を石破総理（当時）に
手交する光石会長及び日比谷副会長



2. 各国アカデミーとの連携・交流

● ②サイエンス20 (Science20 (S20))

- ✓ G20サミット参加国・地域のアカデミーがG20サミットに向けた科学的な政策提言を作成し、共同声明として公表予定。
- ✓ 南アフリカ科学アカデミー主催のもと、2025年9月23日にオンラインにて開催され、日比谷副会長が参加。
- ✓ 全体テーマは「Climate Change and Well-being(気候変動とウェルビーイング)」。共同声明には全体テーマのもと、5つの優先分野と提言を記載。
- ✓ 共同声明は、本年11月22日及び23日に南アフリカ共和国において開催されるG20首脳会合に向けて、G20政府関係者に報告される予定。



2. 各国アカデミーとの連携・交流

● ③二国間交流

- ✓ 2025年4月、大阪・関西万博会場にてポーランド科学アカデミー会長・副会長と会談。
- ✓ 2025年5月、中国科学技術協会(CAST)会長と会談。
- ✓ 2025年10月3日～7日、ニュージーランド首相首席科学顧問、英国王立協会副会長、オランダ王立芸術科学アカデミー会長、ドイツ国立科学アカデミー・レオポルディーナ会長と個別に会談。



ポーランド科学アカデミー会長・副会長
(大阪・関西万博ポーランド館)



ニュージーランド首相首席科学顧問
(日本学術会議会長室)



オランダ王立芸術科学アカデミー会長
(国立京都国際会館)

2. 各国アカデミーとの連携・交流

④アカデミー・プレジデント会議 (APM) (Academy of Science Presidents' Meeting)

- 国立京都国際会館で開催された「STSフォーラム(科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム)第22回年次総会」(2025年10月5日～7日)の分野別会合として、10月6日に日本学術会議の主催により開催。各国のアカデミー／国際機関から18の代表者が参加。
- 光石会長は、全米科学アカデミーのマクナット会長と共同議長を務め、「イノベーションを推進するために最適な科学研究資金のアプローチとは何か？(What are the best approaches to science funding to drive innovation?)」のテーマのもと意見交換を実施。



共同議長を務めた光石会長及びマクナット会長



各アカデミーの代表等

2. 各国アカデミーとの連携・交流

● ⑤世界科学フォーラム(World Science Forum:WSF)

- ✓ 科学者や政策決定者、民間部門の代表者が科学の役割と貢献について議論し、政策提言を発信する場として、2003年から隔年で開催。
- ✓ 2026年11月にインドネシア・ジャカルタにて開催予定のWSF2026のプログラム案審議等のため、2025年7月8日及び9日にWSF運営委員会が開催され、日本学術会議からは日比谷副会長が参加。



運営委員会における議論の様子

● ⑥政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク(International Network for Governmental Science Advice:INGSA)

- ✓ 10月2日に日本学術会議にてINGSAキリオン会長によるセミナーを開催し、対面・オンライン併せて約20名が参加。科学的助言の好事例や国際頭脳循環に関するカナダ・ケベック州の動向を講義。



キリオン会長と対面・オンライン参加者

3. 加入国際学術団体等への貢献

● ①代表派遣

- ✓ 日本学術会議が加入する42の国際学術団体等に対し代表者を派遣
- ✓ 国際学術団体における国際基準・ルール策定などの議論に参画することで、日本の学術のプレゼンスの向上に貢献
- ✓ 代表派遣実施状況(2025年度)
2025年10月現在で、30会議32名の派遣計画を決定
このうち、23会議24名を派遣(うち2件はオンライン出席)



3. 加入国際学術団体等への貢献

• ②国際学術会議(ISC)

✓ 組織運営への貢献

ISCの組織運営に、7名の日本学術会議関係者が参画。

副会長
(任期：2021年～2026年)

小谷 元子 連携会員 白波瀬 佐和子 第一部会員

常設委員会「科学の自由と責任に関する委員会」 委員
(任期：2022年～2025年)

隠岐 さや香 連携会員

太陽地球系物理学科学委員会 会長
(任期：2023年～2027年)

塩川 和夫 連携会員

アジア・太平洋拠点アドバイザリーボード 委員
(任期：2023年～2026年)

氷見山 幸夫 日本学術会議元会員

災害リスク統合研究科学委員会 委員
(任期：2024年～2027年)

寶 馨 連携会員

アーバンヘルス・ウェルビーイング部会委員
(任期：2025～2026年)

中村 桂子 連携会員



3. 加入国際学術団体等への貢献

✓ ISCと若手アカデミーとの意見交換

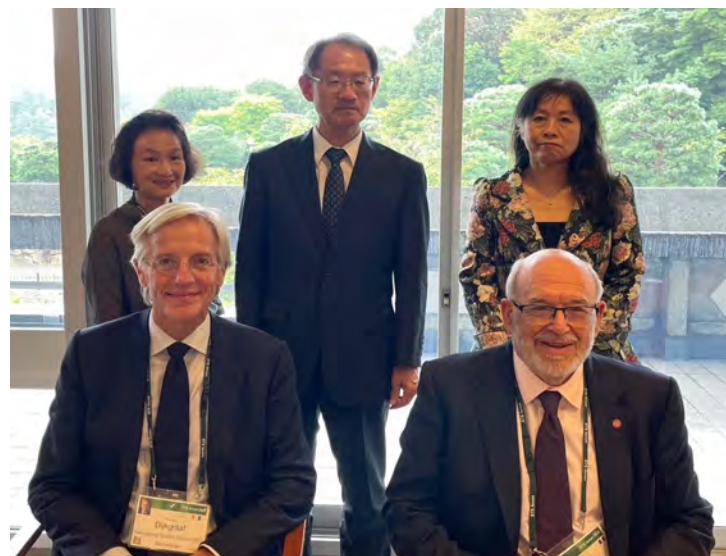
2025年10月3日、日本学術会議にてISCグルックマン会長とダイクラーフ次期会長をお招きし、若手アカデミー代表者との会合を実施。日本の若手研究者が抱えている課題や疑問に関し、会長及び次期会長からアドバイスする形式で、終始和やかな会合。



ISC会長・次期会長と若手アカデミー
(日本学術会議大会議室)

✓ ISCと日本学術会議との会談

2025年10月5日、国立京都国際会館にて光石会長及び日比谷副会長がISCグルックマン会長とダイクラーフ次期会長と会談し、引き続き、日本学術会議とISCの連携強化に関して意見交換を実施。



ISC会長・次期会長
(国立京都国際会館)

3. 加入国際学術団体等への貢献

・ ③インターアカデミーパートナーシップ (InterAcademy Partnership: IAP)

- ✓ 日本学術会議として、声明作成等、適宜協力。
- ✓ アジア科学アカデミー・科学協会連合(AASSA)理事に佐竹健治会員(第三部)が就任(2024年10月～)。
- ✓ 都市の健康(Urban Health)に関するワーキンググループ委員に中村桂子連携会員が就任(2025年1月～)。
- ✓ 若手アカデミーがIAP Young Affiliateに加入(2025年7月～)。
- ✓ コミュニケーション・教育・アウトリーチに関する委員会の委員に、小田中直樹会員(第一部)が選出(任期:2025年12月～2028年12月)。
- ✓ 2025年12月8日～11日に、エジプト(カイロ)にてIAP総会が開催予定。

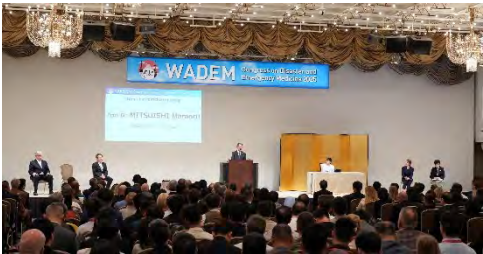


都市の健康に関するワーキンググループ委員が参加した、都市の健康国際サミット(IUHS)
(2025年4月9～11日、ドイツ・ハノーヴァー)
※IAP HPより転載 [Urban Health on the Global Agenda: Highlights from IUHS 2025](#)

4. 国際会議の共同主催及び後援

● 共同主催国際会議の運営

- ✓ 令和7年度(2025年度)共同主催国際会議として6件の会議を開催(これまでの開催実績は363件)。
- ✓ 日本学術会議からは会長又は副会長が各会議の開会式へ出席し、主催者挨拶。
- ✓ 以下会議では開会式に皇室の御臨席を賜った。

「第23回世界災害救急医学会」 (2025年5月)(於:東京)	「第15回国際口蓋裂・頭蓋顔面異常学会国際会議」(2025年10月)(於:京都)
愛子内親王殿下の開会式御臨席及びおことばを賜る  「第23回世界災害救急医学会」開会式	秋篠宮皇嗣同妃両殿下の開会式御臨席及び皇嗣殿下のおことばを賜る  「第15回国際口蓋裂・頭蓋顔面異常学会国際会議」開会式

● 国際学術会議の後援

- ✓ 「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」第22回年次総会を後援。

4. 国際会議の共同主催及び後援

・ 令和9年度(2027年度)共同主催国際会議募集について

●開催支援

- ・ 会場借料等の一部負担
- ・ 皇室御臨席の調整
- ・ 日本学術会議会長等による主催者挨拶

●開催効果

- ・ 世界トップレベルの研究者を招へい
→国内若手研究者の研究支援・育成、国内外の学術振興
- ・ 国際的な学術研究団体との組織的な交流
→世界的課題に対する研究者のネットワーク構築、国際親善
- ・ 市民公開講座の開催促進
→研究成果の社会への還元

募集期間 **2025年10月1日(水)～11月28日(金)**

◎対 象 : 令和9年度(2027年度)に開催される国際会議で、既に国際学術団体により
日本開催が決定しているもの

◎申請方法 : 申請様式に必要事項を記載の上、下記までメールで提出

◎申請先 : 日本学術会議事務局 参事官(国際業務担当)付 国際会議担当 宛

詳細はこちら
(日学HP)



・ 日本政府観光局(JNTO)との連携・協力

- ✓ 国際会議の国内開催に当たり、日本政府観光局(JNTO)と連携・協力。
- ✓ JNTOでは、英語によるプレゼンテーション支援など国際会議の誘致や開催を支援。
→本日、講堂前ホワイエにて、JNTOによる国際会議誘致等支援の相談会を実施中。



5. 国際会議の主催(持続会議)

- 「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」(持続会議)
 - ✓ 2003年以降、持続可能な社会のための科学と技術に関する課題を議論するため、国際会議を毎年主催。
 - ✓ 2025年度は、2026年2月11日及び12日にハイブリッド形式で開催予定。「将来の学術を担う若手研究者を中心とした研究力強化と頭脳循環を目指して」をテーマに議論予定。
 - ✓ 昨年度に引き続き、子連れ参加可能／会場に託児所設置を予定。



6. アジア学術会議(SCA)の運営



● 第24回 アジア学術会議(パキスタン会合)

- ✓ 日本学術会議が事務局(事務局長: 澁澤栄連携会員)を務め、18か国・地域の31機関が加盟。毎年、持ち回りで年次会合を開催。
- ✓ 2025年11月16日～18日、パキスタン科学アカデミー(Pakistan Academy of Sciences)の主催により、第24回年次会合を開催予定(ハイブリッド形式)。テーマは「食料安全保障、持続可能性、生物多様性(Food Security, Sustainability and Biodiversity)。
- ✓ 日本学術会議からは、「令和7年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針(2025年2月27日第381回幹事会決定)」に基づき、以下の会員・連携会員が登壇を予定。

日本学術会議からの代表派遣者(7名)

高山 弘太郎

(第二部会員、豊橋技術科学大学大学院工学研究所教授／愛媛大学大学院農学研究科教授)

光石 衛

(会長、第三部会員、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京大学名誉教授)

春日 文子

(連携会員、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授／Future Earth国際事務局日本ハブ事務局長)

標葉 隆馬

(連携会員、慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科准教授)

澁澤 栄

(連携会員、京都女子大学高等教育開発センター教授)

白鳥 佐紀子

(連携会員、国立研究開発法人国際農林水産業研究センター情報広報室プロジェクトリーダー)

松山 亮太

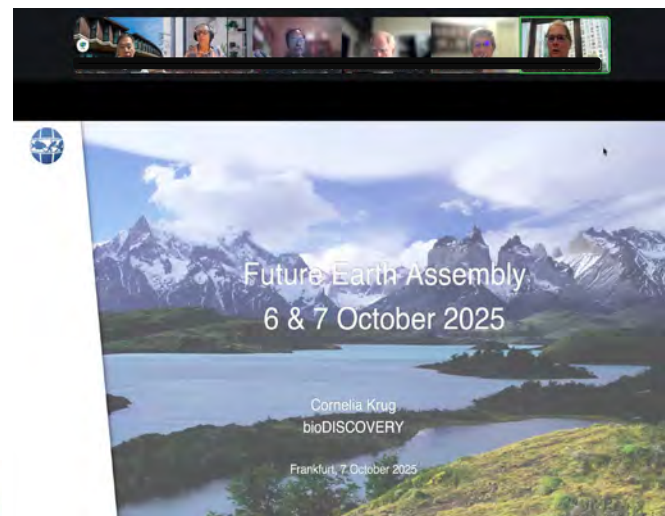
(連携会員(特任)、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門任期付研究員)



7. フューチャー・アースの国際的展開

日本学術会議は、2021年9月に発足した国際事務局(9か国・地域にて構成)ハブの一つである日本ハブの主要支持機関として機能

- ✓ 2025年6月に米国(シカゴ)で開催されたSRI Congress 2025に渡辺知保連携会員、ケニア(ナイロビ)で開催された同Africa Satellite Eventに春日文子連携会員を代表派遣。
- ✓ 2025年10月にオンラインで開催された第5回フューチャー・アース総会へ、春日文子連携会員、谷口真人連携会員及び渡辺知保連携会員を代表派遣。
- ✓ 評議会(Governing Council(GC))に沖大幹会員(第三部)が参画。
(～2025年末)



futureearth
research for global sustainability

「第5回フューチャー・アース総会」

8. 国内外に向けた情報発信

- ✓ 主な国際活動の成果の発信（HP及びX（旧Twitter）、ニュースメール）

2025年 5月 : 政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク(INGSA)との会談

5月 : Gサイエンス学術会議2025

6月 : 石破内閣総理大臣(当時)表敬
(Gサイエンス学術会議2025共同声明等の手交)

10月 : 第22回STSフォーラム総会／国際アドバイザリーボード

この他、国際学術団体や各国アカデミー等が有する広報ツールを利活用。

